

先駆者たちが造った歴史

団長 宮田 誠一

今回、米国西南部の要衝サンディエゴ市を3日間訪ねました。学ぶことの多い所でしたが関心を持ったのは早くから日本人が移入しその地歩を築いていたことです。すでに明治期から移民が行われており初期の日本人は漁業従事者だったそうです。

感心したのはカツオの一本釣りの時よく釣れる針というだけでなく釣った後に外しやすい針、またその技が優れていたことがサンディエゴの漁業、ひいては産業に貢献したという説明でした。

これが技術の先駆者と呼べるでしょう。その後日本人町が造られるほど拡大発展し、いまは横浜と姉妹都市を結び友情を標した鐘楼も新しく作られておりました。

米国西海岸は日本からの移民の歴史が至る所に残されておりますがいずれも先駆者たちが足がかりを作りそれを技術と精神力で拡大して造っていった歴史の積み重ねだと思います。

柏市との姉妹都市 43年間の長い歴史を持つトーランス市もやはり日本との関係の深い都市ですが2012年に市制100周年を迎えたという新しい市ですから日本の移民があった地域ではありません。

しかしこのトーランスを中心に語り継がれる第二次大戦のエピソードこそ最も重要なものです。日本と米国の関係の中で重要な役割を果たし今も敬意をもって語り継がれる「Go for broke!」の精神、日系二世を中心に編成された442連隊の生命を賭した活躍が日米開戦で最悪になっていた日本人感を大きく好転させることになりました。

(写真は南仏戦線後の442連隊僅かの生存兵たち)

おそらく身を分断されるような苦しみで受け入れざるを得なかった日米開戦だったと思います。多くの日本人がどん底に突き落とされたとき Go for broke! (当たって砕けろ!) の活路を見出した人たち、これが精神の先駆者と言えらると思います。

そういう歴史を受け継いでいる今のトーランスはどうでしょうか? 人々は日本の文化、技術をたたえ自分たちの生活に取り入れております。広い範囲の日本の芸術・芸能が紹介され青少年交換派遣事業の資金作りに貢献し毎春開催される催しは“ブンカサイ”という名が定着しております。



青少年交換派遣事業に携わる人たちも日本への関心が高く、何よりも長い歳月をかけて培われた人的交流の絆の太さ、強さに驚かされます。私が今度の滞在でお世話になった2番目のホストファミリーの Butch and Donna 夫妻は15年も前にお世話された団長夫妻のこと、親のこと、家族のことなど正確に覚えておられました。私はそのようなトーランスの人々の心が嬉しくどんなすばらしい旅行をしてもこのように心が洗われるような思いをすることは無いと思います。

私がほんの一言遠慮しながら書いていたフリーデーの訪問希望は「アメリカの1940~60年ころの Oldies movie に関する思い出が残っているところを訪ねる」、というささやかなものでした。でもこの希望を前半・後半の仲の良いホストファミリーが一緒になって何か所も連れて行ってくれました。このような思いやりの気持ちをトーランスのいたるところで、大勢の人たちから表されて毎日感激の連続でした。トーランス市と柏市という枠を超えて観ても現在の日米関係は相互の信頼と友情がベースになった強いものだとすることができます。随分長い時間をかけて日米両国人は最も理解しあえる隣人であることが分かり、道義と友情を重んじる共通性に気付いたのだと考えます。今度の派遣事業を最も印象的に一言でいうならば・・・“トーランス市と柏市は世界一の姉妹都市である”・・・と言えます。両市で青少年交換派遣事業を支えてくださる方々、外部から支援の手を与え続けて下さる方々、そしてけがも病氣もせず交流を促進し自らも学んでくれた43回生諸君に心からお礼を申し上げます。